

平成29年度 法人運営目標・指針



法人運営目標

ご利用者に質の高いサービスを提供するとともに、ご利用者・家族と地域の住民・事業所、ボランティア等との関わりを深め、支え合いを促し、ご利用者の自立支援を地域ぐるみで行えるよう取り組む。同時に、ご利用者の社会参加を進め、社会とのつながりを深めていくことで、ご利用者の幸福度を高める。この取り組みが地域包括ケアシステムに繋がっていく。

当法人の理念「家族の絆を深め、在宅生活の喜びを創造する。」のもと、地域包括ケアシステムの実現に向けて、運営目標→実行プラン→実行体系→実践→成果という一貫性のある全体最適経営をさらに進め、ご利用者の幸福度、職員の満足度を高め、法人の安定成長を図る。



法人運営指針

1. 地域の支え合いを促し、ご利用者の社会参加を進める。

- (1) 社会貢献活動等地域での活動を積極的に行い、また、地域の方が施設で活動できる場を提供する等して、当法人と地域のつながりを強化する。
- (2) 地域の事業所及び多職種の連携から、さらに地域の多様な資源（ボランティアや地域の組織）との連携へと幅を広げ、支援が必要な人を支えるネットワークの構築に貢献する。
- (3) 地域ケア会議を推進し、地域課題の解決に必要な資源開発や地域づくりに貢献する。
- (4) 地域の支えあい意識の醸成や地域包括ケアシステム推進のために、積極的に広報活動を行う。

2. 経営の安定

- (1) リーダー（役職者）のマネジメント力を向上させる。
 - ・リーダーは自己のマネジメント力向上のために、自己啓発に取り組む。
 - ・主任（補佐）・センター長（補佐）が外部講師によるマネジメント研修を受講することにより、部署のレベルアップを図る。

- (2) 人材マネジメントの強化。(社員がやりがいを持ち、成長を感じて納得して働き、それを法人の成長に如何につなげるか。そのための仕組み作りと運用の強化。)
- ① 採用戦略の再構築を行う。その一つとして、初任者研修を当法人で実施して、修了者に当法人で勤務してもらう方法も検討する。
 - ② 人事評価制度の再構築の検討を進めていく。
 - ③ 人材育成(人を育てること)の新しい取り組みや仕組みの構築を行う。
 - ④ 役職者は、部下に働きかけ、動機付けを高めることにより、目標達成へと行動を促す。
 - ⑤ 限られた時間の中で効果的・効率的な業務を行えるように、業務の棚卸等、様々な手法を学び実践する。
 - ⑥ 全職員は、自分の成長のために自分を見つめなおし、専門知識に加え、「社会人基礎力」(別紙)を高める。
- (3) サービスの質の向上と新たな価値の提供
- ① ご利用者・ご家族の声に耳を傾け、サービス改善を行う。
 - ② 本館内装リニューアルの実施による清潔感や温かみのある空間を演出する。★
 - ③ 自部署のサービス内容を客観的に見て、弱みを補強し、強みを強化する。
 - ④ 同業他社と比較して、ここは負けないという特徴を造る。

3. 2018年 医療・介護のダブル報酬改定への対応

- (1) 報酬改定の情報に敏感になり、その対応策をいち早く実行に移せるように対応する。
- (2) 次期改定では、アウトカム(成果)が求められる。
提供したサービスがどれぐらいご利用者の役に立ったか、どのようなメリットや利益をご利用者が得られたかを把握する。これは、ご利用者が事業を選択する際の情報ともなる。また、この情報を用いて、研究発表にもチャレンジしてほしい。

4. 中長期的な実行プラン

- (1) ICTを活用した次世代型保健医療システムが検討されている。中長期的にその対応を進めていく。
- (2) ボランティア活動の支援
ボランティアがいきいきと活動できるような仕組みを造る。中長期的には、施設内だけでなく、在宅で支援を必要とする方に対して活動を実施したり、コミュニティカフェを開設する等、自立して、多面的な活動をしていただけるようなボランティアグループへの成長を支援する。
- (3) 労働力人口が減少する中、安定したサービスを提供していく体制を維持するために、多様な人材の活用、多様な働き方を取り入れることを検討していく。
- (4) 職員の業務負担を軽減するための、介護ロボットやセンサー等の導入を検討していく。

以上